

講義コード	519100602	
講義名	教育心理学 CD	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
科目分類名	専門科目	
科目分野名	教職に関する科目	
対象学部・年次	短期大学部・2年	
必須/選択	必修	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	設楽 紗英子	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

本科目では、効果的な保育・教育の実践を支える心理学の知識として、子どもの認知や思考、学習者の適性、効果的な学習のあり方、学習を促す上での支援について学びます。

授業の到達目標及びテーマ

保育者としての資質を高めるためには、子ども一人ひとりの心身の発達や学びを支援する方法を裏付ける知識に精通しておくことが求められます。本授業では、子どもの学びを理解する心理学的な考え方や方法を論じることができることを目標とします。

本科目は、幼児教育課のディプロマ・ポリシー「2.幼児教育の基本的知識を体系的に理解している。また、幼児教育の歴史、社会や自然と関連付けて理解している。」と「4.幼児教育の知識・理解に基づいた幼児教育の方法や技術を習得している。」を達成するための科目です。

授業計画表

教育心理学

回	担当教員	項目	内容
第1回	設楽 紗英子 あ	教育心理学と 保育実践	教育心理学の目的と内容について説明し、実習等の振り返りから教育心理学の知識の活用について考えます。
第2回	設楽 紗英子	子どもを理解 する視点	プロセス・レコードを活用して実習等における自身の保育活動を振り返ります。このワークは、第3回以降の授業の中で、授業で扱った教育心理学の知識を実践的に理解するためにも活用します。
	設楽	成熟と学習、	

第3回	紗英子	発達① 発達のイメージ	成熟と学習、発達の違いについて整理し、発達の基本的な考え方を復習します。
第4回	設楽紗英子	成熟と学習、発達② 発達の速度とルート	成熟と学習に関する理論について学びます。
第5回	設楽紗英子	思考① 思考の基礎知識	思考に関する基礎知識について学びます。
第6回	設楽紗英子	思考② 子どもの思考	乳幼児期の子どもの思考の特徴について学びます。
第7回	設楽紗英子	記憶① 記憶の基礎知識	記憶の基本的な仕組みについて学びます。
第8回	設楽紗英子	記憶② 子どもの記憶力	子どもの記憶力の特徴について学びます。また、記憶がうまくいかなくなる現象について実験的に体験し、子どもを指導する際の留意点について考察します。
第9回	設楽紗英子	学習① 学習の基礎知識	行動理論について学びます。
第10回	設楽紗英子	学習② 学習理論の応用	古典的条件づけとオペラント条件づけの実践方法を具体例を基に考えます。
第11回	設楽紗英子	動機づけ① 動機づけの基礎知識	動機づけの仕組みについて学びます。
第12回	設楽紗英子	動機づけ② 動機づけ理論の応用	幼児期の動機づけの特徴を学びます。また、ロールプレイや自身の実習を振り返りながら、動機づけのプロセスを体験し、子どもに関わる際の留意点について考察します。
第13回	設楽紗英子	集団① 集団の特徴とプロセス	集団の特徴（特にクラス集団）とそこで生じやすい問題について学びます。
	設		

第14回	楽紗英子	集団② 親密さの形成要因	集団や他者との関係が構築されるプロセスについて、じゃんけんゲームや集団ゲームを通して体験し、親密な関係を築く際の留意点を考察します。
第15回	設楽紗英子	子どもの理解に基づく発達援助	発達の援助の考え方やチーム援助について学びます。さらに、自身の実習等における子どもの関わり方について、自律性支援や行動理論の観点から、再度考察します。

授業時間外の学修

- 1) 予習 各回のテーマに関連する文献の事前読了や調べ学習を求めます（3時間程度）。
- 2) 復習 各回で扱った内容を指定した方法で振り返り、まとめ、提出してもらいます（1時間程度）。

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

① 幼児教育者観	② 知識・技能	③ 実践力と実務能力	④ 人間性と協調性
◎	◎	○	○

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
表現力	授業内容を100%理解しており、臨機応変に教育心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べることができ、表現力がより豊かに身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、教育心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べる表現力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、教育心理学の知識を用いて保育・教育について意見を述べる表現力がやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
保育実践への準	授業内容を100%理解しており、今後の保育実践でも教育心理学の知識を用いた臨機応変な対応をする準備が、十分に整って	授業内容をほぼ95%程度理解しており、今後の保育実践でも教育心理学の知識を用いた対応をする準備が整って	授業内容をほぼ70%程度理解しており、今後の保育実践でも教育心理学の知識を用いた対応をする準備がやや整っていることが認めら	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援

備 状 況	いることが認められる	いることが認められ	れる	を行っている
-------------	------------	-----------	----	--------

成績評価法（表形式）

	評価基準	備考
定期試験	60%	授業で学んだ知識の確認（特に他者に説明することができるか）や、教育心理学の知識に基づいて保育に関する議論ができるかを評価します。
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	10%	授業ごとに、テーマに沿った個人あるいはグループの活動を行いますので、積極的に参加してください。
レポート	30%	授業ごとに、各回のテーマについて理解を深める課題を出します。出欠の如何に関わらず必ず取り組み、提出し、授業内容の理解に役立ててください。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
掲示板等に正解と講評を掲載する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	

ICTを活用した双方向型授業の内容

クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用
--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30～60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート （議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用		

教科書
適宜資料を配布します。
参考書
吉田武男 (監修), 濱口佳和 (編集) 教育心理学 (MINERVAはじめて学ぶ教職) ミネルヴァ書房
SDGsとの関連
4. 質の高い教育をみんなに
研究室 (訪問先等)
中央研究棟2階226研究室 直接研究室を訪ねるかチャット等で連絡をして下さい。
電話番号
028-667-7111 (代表)
授業用E-mail
shitara@sakushin-u.ac.jp